

2022 年度理論懇総会議事録

2022 年 12 月 21 日 17:45- コラッセふくしま4F

報告(スライド資料参照)

*事務局報告--事務局長は 2023 年まで(スライドタイポ)

*物理学領域委員--須山輝明氏(東工大)が承認された。

*学会での理論懇報告会について

対面でやった方がよいのでは、という意見があった。天文学会では現地での各種ミーティングは認められてないという現状があるので、次回は zoom でやって、将来的にはハイブリッドで対応することを目指すこととする。

*日本における理論研究について--今後は3年間隔でなく随時改訂可となることが確認された。

*天文台報告--特にコメントなし

*基研報告--特にコメントなし

議題

*理論懇シンポについて

・poster について対面でやりたいという意見が複数あった。

・お金を使ってでもポスターボード(もしくは大型ディスプレイ)を用意するのはどうか？

・理論懇予算を懇親会での学生の補助に使うことが決まっているが、これが難しくなったので、ポスターに使ってもよいのではないか。

→LOC と確認し、(引き続き)ポスター対面開催の可能性を探ることとした。

・理論懇会議前にスラックにプレゼンファイルやポスターを上げられるようにしてほしい。

→スラックを早めに立ち上げることは可能なのでそうする。ファイルを実際に挙げるかどうかは発表者のベストエフォートで。

次回理論懇テーマについて

年内意見を募り、その後運営委員会主導で決定する、ということで弘前開催が承認された。1月20日締め切りの天文台研究会助成に申請する。

再来年については、春の報告会くらいまで立候補を募り、特になければ運営委員会から直接候補地へ打診する。

*科学研究部諮問委員会について(スライド資料参照)

- ・理論懇だけ問い合わせて決めてしまうと後に禍根を残す可能性があるので、他のコミュニティにも連絡をした方がよい
- ・理論懇に何名推薦枠を与えるのかの具体的な記述があってもよい
- ・理論懇から何名などは他の委員会と同様に明記せずに暗黙の了解に従うのがよい
- ・運営会議に持って行く際には人数についてもコメントする
- ・台長から諮問されたとき以外にも意見を言えるようにしておくとうい

などの意見が出された。理論懇で承認する/しないという類のものではないが、現在の文案については特に反対意見はなかったので、得られたコメントを天文台へフィードバックする。

*運営委員長別撰について(スライド資料参照) - 賛否両方意見があった。

- ・運営委員会の若年化が進んでいるのは確か。他のコミュニティから委員長が若いと言われたこともある。(若い人が委員を務めるのは理論懇の伝統的特色、との意見もあった)
- ・コミュニティから推薦された運営委員長という立場なのであって、教授・准教授の格は関係がないのでは。
- ・過去には 天文台委員長・副委員長・理論懇委員長の議論機会なども実際あり、その場合に若い人(状況や経緯を知らない人)で適切な対応が可能か?という懸念がある。道を誤れば理論懇が総意としてサポートしている天文台スパコンが危機を迎える可能性がある。
- ・立場が人を育てるので若い人がどんどんやればよい。
- ・時間を奪われすぎるのはよくないので、うまく業務を分散化するしくみはないか。
- ・顧問的な立場の人を設けるのはどうか。委員長が直接指名してもよいのでは。
- ・経験者からのアドバイスがもらえるかどうかは時の委員長の居所に依存する。相談相手が多い大規模機関の所属者から先に3選を終えてしまう傾向。
- ・4選禁止を5選禁止くらいにするのはどうか?→これについては”よくない委員会”の構造にもむすびつきるので今の選挙システムを大きくいじるのは疑問、との意見もあった。

結論に至らず、一度持ち帰って運営委員で再検討する。

*夏の学校について(スライド資料参照)

平島氏から説明があった。例年通り10万程度の支援を行うことが承認された。合宿形式ではなく、研究会形式の対面開催を予定。

理論天文学宇宙物理学懇談会 総会

2022年12月22日(木)

- 報告

- 新運営委員会発足および各種選挙
- 物理学会関係の報告(小林さん)と領域委員の承認[←議題]
- 会計報告(横山(修一郎)さん)
- 天文台からの報告(富永さん)
- 基研からの報告(成子さん)

- 議題

- 理論懇シンポジウム: 次回・次々回
- 「科学研究部諮問委員会」について(富永さん)
- 「委員長別選」について(井上さん)
- 「夏の学校」について(平島さん)

報告

新運営委員会(2022年12月から)

- 2023年11月末まで(非改選)
 - 井上 剛志 (甲南大)
 - 小林 努 (立教大)
 - 諏訪 雄大 (東大教養)
 - 富永 望 (国立天文台) **副委員長**
 - 成子 篤 (京大基研)
- 2024年11月末まで (10/18–10/27投票) よろしくお願ひいたします。
 - 市來 淨與 (名古屋大) **委員長**
 - 谷川 衝 (東京大)
 - 廣島 渚 (富山大)
 - 藤田 龍一 (追手門学院大学)
 - 浜名 崇 (国立天文台)
- 事務局長 (2022年10月–2024年9月末) 横山修一郎 (名古屋大)

理論懇関係選挙: 結果 (10/14-10/24投票)

- APCTP日本委員会委員候補
 - 大向一行(東北大)
- 基研共同利用運営委員(正候補+補欠、順位をつけ2+2名)
 - 1. 菅野優美(九大) 2. 仏坂健太(東大) 3. 久徳浩太郎(京大) 4. 須山輝明(東工大)
- 基研運営協議会委員(正候補+補欠、順位をつけ2+2名)
 - 1. 戸谷友則(東大) 2. 横山順一(東大) 3. 早田次郎(神戸大) 4. 諏訪雄大(東大)

基研運営協議会委員については11月7日-14日で再選挙を行いました。(10/31 小林さんからのメール [rironkon:03050]参照)

物理学会関連

- 第17回日本物理学会若手奨励賞
 - [実験] 大橋健 (名大ISEE)
 - [実験] 鈴木寛大 (甲南大理工)
 - [理論] 川口恭平 (東大宇宙線研)
- **春の物理学会 2日目(3/23 午前) に受賞記念講演が予定されています。**

物理学会関連（続き）

- 物理学会の領域委員の推薦

- (任期: 2023年10月-2025年9月、このうち運営委員兼務 2024年4月-2025年3月)

須山輝明 氏 (東工大)を領域委員として推薦することを**ご承認ください。[←議題]**

- 現在の委員は小林努(立教大)と藤田龍一(追手門学院大)で、小林と須山氏が交代になります。

学会での報告会

- 物理学会会期中にまとめてオンライン(Zoom)で実施

3月24日(金) 12:30-13:00

ミーティンググループURLは後日MLで連絡

会計報告

理論懇事務局 報告

10月より事務局（名大物理(2021年度から継続)）

1. 会計報告

2021年度会計：2021年10月1日～2022年9月30日

収入	4,628,975 円（前年度からの繰越し） 108,750 円（会費納入のべ54名）
支出	10,081 円（シンポジウム若手賞賞状代など） 5,612 円（レンタルサーバ使用料+振込手数料） 4,422 円（レンタルサーバドメイン使用料+振込手数料）
計	4,717,610 円

2022年度会計：2022年10月1日～2022年12月1日

収入	4,717,610 円（前年度からの繰越し） 30,500 円（会費納入のべ17名）
支出	0 円
計	4,748,110 円

(2015年総会時に「10年かけて200万まで資産を減らす」という決議があり、2019年総会で「理論懇シンポでの旅費補助の拡充の継続」が承認された。) → 今回のシンポでは80万程度を補助に充てる予定。(春学会で報告します)

理論懇事務局 報告

2. 会員数：528名（2022年12月1日現在）

2021年度	新規入会 34名	退会 3名
2022年度（12月1日まで）	新規入会 13名	退会 0名

会費滞納者数（前年度までの累積滞納年数）

5年分以上滞納	77名（→ 督促）
4年分滞納	16名
3年分滞納	10名

海外在住中の納入猶予；（理論懇ホームページ「会費納入について」）

海外在住中は会費納入が困難なことから、申請があれば納入猶予を認めます。

ただし**免除**にはなりません（2010年度総会）。申請は年度毎に事務局まで申請して下さい。

納入猶予制度は海外からの振込が困難である方のための制度です。

よろしく願いいたします

「日本における天文学・宇宙物理学の理論研究」について

今年の理論懇シンポジウムをめぐり、冊子URLを理論懇ホームページ内の「日本における天文学・宇宙物理学の理論的研究」という場所で公開。

入力お願いいたします。

昨日9月15日より、
理論懇HP会員専用ページにおいて
上記の簡単な説明ファイルの
リンク先を公開

http://rironkon.jp/doc/nihon_edit.pdf

理論懇会員専用ページ

- ・ [名簿](#) (事務局で随時更新)
- ・ [名簿の訂正はこちら](#)
- ・ [会費支払状況\(50音順\)](#) (事務局で随時更新)
(※名簿、会費支払状況がうまく表示されない場合は、[こちらをご参照下さい](#))
- ・ [AAPS提出用の物理学会員名簿](#)
- ・ [選挙関連資料](#)
- ・ [APCTP日本委員会委員について](#) (2021年12月に追加)
- ・ [国立天文台各種委員について](#) (2022年5月に追加)
- ・ [「日本における天文学・宇宙物理学の理論的研究」原稿作成に関して](#) (2022年9月に追加)

[理論懇のホームページへ](#)

紹介文章作成過程において何かございましたら、事務局までご連絡ください

rironkon_jimu_at_rironkon.jp

ご協力よろしくお願いいたします。

国立天文台報告・基研報告

国立天文台報告

天文台全体に関わること

- 特になし
- 執行部
 - [台長]常田佐久、[副台長](総務)吉田道利、(財務)齋藤正雄、[技術主幹]鵜澤佳徳、[研究連携主幹]本原顕太郎

科学研究部・天文シミュレーション
プロジェクトに関わること

人事公募

- 科学研究部（天文台内の規定で着任日までは公式には未公表）
 - 教授（1名）：審査中
 - 助教（1名）：未公表
 - 研究員（系外惑星1名）：未公表
- CfCA
 - 研究支援員：木村 千恵
- 全台
 - 天文台フェロー（去年度募集）：小久保充（プリンストン大学）
 - プロジェクト研究員（去年度募集）：なし
 - EACOA fellow：Jeong-Gyu Kim（Korea Astronomy and Space Science Institute）

その他の人事異動（転入）

- 科学研究部
- CfCA

人事異動（転出）

- 科学研究部
- CfCA

人員構成 – 科学研究部 (*はCfCA併任)

- 教授
 - 川邊、野村、大内、生駒、冨永*
- 准教授
 - 中村、藤井、町田*
- 特任准教授
 - Behroozi
- 助教
 - 浜名、片岡、守屋*、森野、原田、Dainotti
- フェロー、特任助教、PD
 - 杉山、谷口、長倉、Arzoumanian、千秋、小久保、中島、古家、高橋、伊藤（祐）、小林、Burns、岩田、Jiang、菊田、Totorica、Kim、鷓山、奥谷、松下

人員構成 – CfCA (*は科学研究部併任)

- [教授] 小久保*、[准教授] 滝脇*、[講師] 伊藤（孝）、[助教] 岩崎*、[特任専門員]: 波々伯部、福士、[特任研究員] 出口、瀧、野沢、松本、Keszthelyi、[研究支援員]: 加納、木村、[事務支援員]: 増山

共同利用

- 2023年度滞在型共同研究
 - 第1回募集締切：2023年1月20日（金）17時（日本標準時）
 - 第2回募集締切：2023年6月23日（金）17時（日本標準時）
 - 第3回募集締切：2023年9月22日（金）17時（日本標準時）
- 2023年度研究集会
 - 第1回募集期間：2023年1月20日（金）17時（日本標準時）
 - 第2回募集期間：2023年6月23日（金）17時（日本標準時）
- 2023年度NAOJシンポジウム
 - 2022年9月22日（木）17時（日本標準時）
- 2023年度国内客員研究員
 - 2022年9月22日（木）17時（日本標準時）
- 2023年度外国人客員
 - 2022年9月22日（木）17時（日本標準時）
- サバティカル研究者の受入れ（随時）

計算基礎科学連携拠点

- 富岳成果創出加速プログラム

計算宇宙惑星（宇宙の構造形成と進化から惑星表層環境変動までの統一的描像の構築）

- サブ課題B 星形成と惑星形成をつなぐ統一的描像の構築

小久保，岩崎が参加.

- 機関：東北大学，国立天文台，東工大，岡山大

- サブ課題C BHと超新星爆発における高エネルギー天体現象の解明

滝脇、町田が参加

- 機関：筑波大学，千葉大学，早稲田大学，国立天文台，沼津高専

2022/12/14 高性能計算物理勉強会(第17回)

2022/12/12 富岳で加速する素粒子・原子核・宇宙・惑星 シンポジウム

2022/09/16 高性能計算物理勉強会(第16回)

2022/06/28 計算資源利用に関する課題内ワークショップ（第5回）

CfCA計算機共同利用等

- 2023年度 CfCA 共同利用
 - 申込締切 2023年 1月23日(月) 09:00 JST
 - 参考
 - XC50のうちXC-S, XC-A, XC-B, XC-MD : 年に2度の利用申請機会があり。2度=[12月末から1月にかけて]及び[6月末から7月にかけて]。詳しくはウェブページ参照。
 - XC-Trial : 随時の申請を受け付けています。

2024年スパコンリプレイス

2024年4月CfCAのスパコンXC50のリプレイスを予定している。
現在のマシンの延長線上のCPUマシンを検討。仕様策定委員会で
議論の末、仕様書を仕上げていく。

現状の予定は以下。昨今の半導体の品薄を鑑み、全体的に時期
を遅らせる可能性もある。

2022/10/12 スパコンリプレイスに向けた仕様検討会

2022/11/17 利用者向けリプレイス説明会

2023/01/26-27 成果報告のためのユーザーズミーティング

2022/02 仕様書案確定

2023/08 仕様書確定入札

2023/10 開札

2024/05-06 新スパコン稼働

京都大学基礎物理学研究所報告



第35回 理論懇シンポジウム

コラッセふくしま

2022年12月22日

理論天文学宇宙物理学懇談会

1. 人事

■ 所員人事

<着任>

中山 優（素粒子、教授） 2023. 4. 1 立教大准教授より

杉下 宗太郎（素粒子、助教）
2023. 1. 1 名大高等研究院特任助教より

Andrew Darmawan（量子情報、特定講師、科研費学術変革A）
2023. 4. 1 さきがけ専任研究者より

<選考中、2023年1月下旬決定予定>

素粒子論准教授

■ 基研特任助教（研究員）

丸岡 敬和（物性、科研費、2023. 1. 1～）

■ 研究員

高倉 龍（量子情報、受託、11. 1～）

■ 外国人客員教授（2022～2024年度）

2022.8.16～2023.1.15

SENOVILLA, José María Martín

（University of the Basque Country : 宇）

2022.11.26～2023.3.3

COLÒ, Gianluca （University of Milano : 核）

2022.12.17～2023.3.31

VAN WIJLAND, Frederic （University Paris Diderot : 物性）

2023年度

CARDOSO, Vitor （Instituto Superior Técnico : 宇）

HEITGER, Jochen

（Westfälische Wilhelms-Universität Münster : 素）

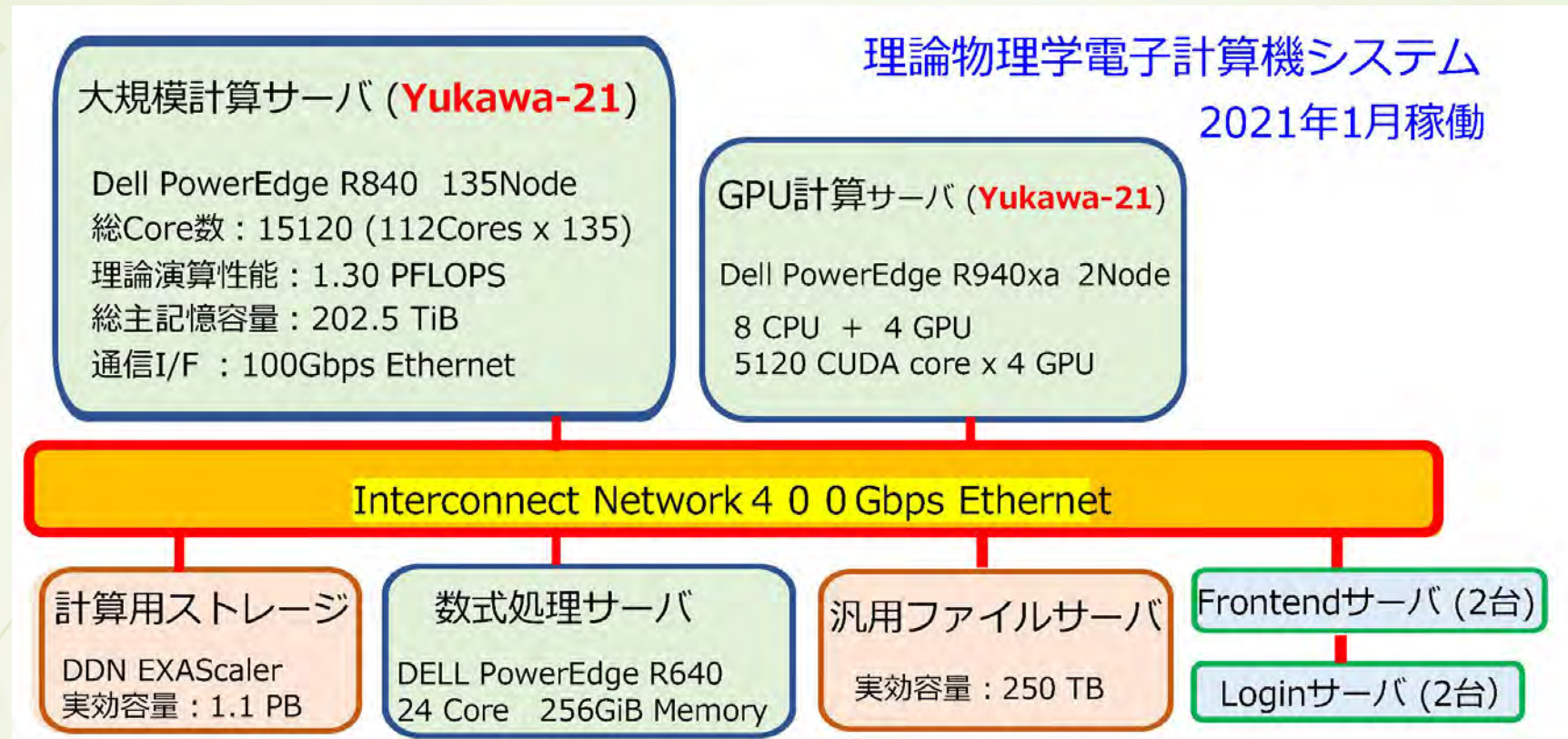
SCHNYDER, Andreas P.

（Max Planck Institut for Solid State Research : 物）

2024年度

BERNARDEAU, Francis （Institut de Physique Théorique : 宇）

2. 計算機システム



- ・ 国内機関に所属する理論物理学研究者、一時的に海外の研究機関に所属する日本人若手研究者に無料提供。
- ・ 5年間の総レンタル料は、約4.7億円。京大の計算機予算は年3%削減。
- ・ 電気代の高騰を受け1ラックを試験停止していたが11月から再開、年度内は全体稼働。

3. コロナ禍対応

- ▶ 所内の活動ガイドラインを策定
- ▶ オンライン環境の整備を継続中
- ▶ 国際コロキウム（オンライン）

コロナ禍での国際交流として海外の著名研究者によるオンライン国際コロキウムを開始・動画配信。3か月に1回。

- ▶ 新ビジター制度

コロナ禍によって減っている研究交流の機会を提供。2022年度は重力量子情報研究センターの事業として実施し30名以上が利用。上限3か月以内の滞在をサポート。募集中

- ▶ 国内モレキュール型研究会 開催1か月前まで随時募集中

少人数が基研に集まり共同研究の進展や立ち上げを目指す計画を募集。好評につき2022年度も3件実施済み。

コロナ禍対応（続き）

▶ 研究計画（研究会）

- ハイブリッド開催、オンライン開催の計画も申請可。
- 感染状況に応じて延期や、会場開催からオンライン・ハイブリッド開催への変更が可能。
- **講演会場およびポスター発表会場の人数制限解除（10月）。**
- WEB会議システムのライセンスを提供。
- **感染症対策ガイドライン・チェックシート**
参加者への対応や会場利用時の注意点、体調不良者への対応を世話人・参加者向けガイドラインとして策定。
- **国際モレキュール型プログラム**
コア外国人研究者をオンライン参加とする計画も可能。

4. 2022年度研究計画（一般共同利用）

12/21-12/23 非自明な電子状態で発現する超伝導現象の新しい潮流

2023/3/13-3/16 Japan-France joint seminar “Physics of dense and active disordered materials”

5. 2023年度研究計画（開催決定済み分）

7/31-8/2 Frontiers in nonequilibrium physics: active matter, topology and beyond

8/3-8/5 The 45th Anniversary Symposium of Yamada Science Foundation, YSFYITP Symposium: Perspectives on Non-Equilibrium Statistical Mechanics

12/5-12/14 The 18th Kavli Asian Winter School on Strings, Particles and Cosmology

その他の2023年度計画は、1月の共同利用運営委員会で決定。

6. 国際滞在型研究会



2023年度

- **“Quantum Information, Quantum Matter and Quantum Gravity”**

2023.9.4～10.6

組織委員長: 石橋明浩、奥西巧一、高柳 匡、森前智行

連動するYKIS2023を提案予定

- **“Gravity and Cosmology 2024 (GC2024) ”**

2024.1.29～3.1

組織委員長: 向山信治

2024年度

- 原子核分野で提案予定

7. 運営関係

▶ 重力量子情報研究センター（CGPQI）の設置

平成4年概算要求により、**物理学と量子情報の分野融合研究の拠点**として2022年4月に発足。センター長は教授・高柳 匡。2022年度に特定准教授、特定助教、研究員を採用。

▶ 第16回湯川記念財団・木村利栄理論物理学賞

受賞者 仏坂 健太（東京大学大学院理学系研究科附属ビッグバン宇宙国際研究センター）

授賞式と講演 2023年 1月 18日（水） 15時～
パナソニック国際交流ホールおよびオンライン

運営関係（続き）

▶ 所長・副所長について

所長 青木 慎也（2021年4月1日より任期2年）

副所長 佐藤 昌利（2022年4月1日より任期1年）

▶ 運営協議会委員 2021年4月1日より任期2年

基研の運営全般（人事、予算など）について決定

早田 次郎（神戸大） 横山 順一（東大）

＜所内＞柴田 大、向山 信治、井岡 邦仁

▶ 共同利用運営委員 2021年4月1日より任期2年

基研研究会、滞在型研究会などの採択と予算配分を決定

諏訪 雄大（東大） 小林 努（立教大）

＜所内＞樽家 篤史

議題

最近の理論懇シンポ

- 2013 IPMU 「2020年代を見据えた理論宇宙物理・天文学」
– 大規模・中規模の観測計画の中で理論天文学の役割を議論。各分野の招待講演
- 2014 国立天文台 「理論天文学・宇宙物理学と境界領域」
– 素粒子・原子核から高エネルギー天文・星惑星形成・計算機科学いたる分野の招待講演
- 2015 大阪大学 「宇宙における天体形成から生命まで」
– 星・惑星形成、元素合成、化学進化、地球科学等に関する分野の招待講演
- 2016 東北大学 「重力が織りなす宇宙の諸階層」
– 修正重力・統一理論から天体力学まで、重力が関係する幅広い分野の招待講演
- 2017 東京大学 「星の物理の新地平」
– 幅広い意味での星の物理に関する招待講演
- 2018 京都大学 「宇宙物理の標準理論：未来へ向けての再考」
– 宇宙物理学各分野のエキスパートによる標準理論の招待講演
- 2019 国立天文台 「天文学・宇宙物理学の変遷と新時代の幕開」
– 未解決課題と新たな課題，そして新時代の理論研究が目指すべき方向性について議論
- 2020 名古屋大（オンライン） 「理論天文学・宇宙物理学のブレイクスルー」
– 直近に起こった各分野のブレイクスルーをレビューし、将来研究の指針を議論
- 2021 ICRR+IPMU（オンライン） 「挑戦的アイデアで広げる宇宙物理の可能性」
– 挑戦的なアイデアあるいは国内外の新奇な研究の試みについて多様な議論
- 2022 福島大学 「理論天文学・宇宙物理学の広がり：さらなる発展に向けて」

来年（2023年）の理論懇シンポジウム [議題]

会場：弘前大学 50周年記念会館みちのくホール

日程（案）：12/25（月）－27（水）

LOC：高橋龍一、浅田秀樹、仙洞田雄一、学生多数

SOC：理論懇運営委員（10名）

口頭発表は現地開催（状況によりハイブリッド形式）

ポスター発表はオンライン形式



来年度以降

- 基研一本郷ー基研ー立教ー京大（宇物）ー天文台 ー名古屋ー基研ー天文台ー筑波大ーIPMUー天文台 ー阪大('15)ー東北大('16)ー東大('17)ー基研('18)ー天文台('19)ー名古屋('20)ーICRR+IPMU('21)ー福島大('22)ー弘前大('23)
- 理論懇MLにて2024年以降の開催地立候補を募集 (@12/20)
 - よろしくお願ひします。

事務局ローテーション

- **3Nルール** 「常勤（任期5年以上）の理論懇スタッフが**3N人以上**いる研究機関は、一回のローテーション中でN回担当する。ここでNは零以上の整数。事務局の任期は1年ごとの持ち回りで、10月1日から翌年9月30日までとする。」

$N \geq 2$ にただちに該当するのは:

$N=3$ 国立天文台科学研究部

$N=2$ 名大理、東大物理+RESCEU、東北大天文、筑波大物理、ICRR+IPMU

口一テーション(確認)

- 東大天文-->東大柏(2年) --> 弘前大--> KEK --> 山形大--> 理研 -->京大天体核--> 京大宇物 --> 東北大天文(2年) --> 名大物理(2年、今2年目) -->東大教養 --> 京大基研 -->東大物理・RESCEU合同(2年) -->阪大宇宙進化 -->国立天文台科学(3年) --> 筑波大物理(2年) -->千葉大物理 -->東工大物理・地惑--> 東大天文にもどる

科学研究部諮問委員会について（富永さん）

科学研究部諮問委員会について

- 国立天文台と理論系のコミュニティの方々と
の意思疎通
- 科学研究部と国立天文台運営会議外部委員協
議会との面談
- 科学戦略委員会
 - 国立天文台全体のプロジェクトを包含しコ
ミュニティーと連携した科学戦略を考える
- 理論専門委員会に代わる科学研究部諮問委員
会（観測の方も含む）の立ち上げ
- 科学研究部が理論懇と調整の上、運営会議経
由で設立を執行部、台長に提案する

理論懇からの要望

(改組にあたっての運営会議宛要望書) 2018.8.4

- (1) 科学研究部のメンバーがサイエンスに集中できるような体制
- (2) 科学研究部の研究成果が改組によってあがっているか
- (3) 研究会開催等、台外の理論研究者と十分交流できる場をつくること
- (4) 積極的な人事交流が行われる環境をつくること

(過去の理論) 専門委員会規則

- 第2条 委員会は、台長の諮問について答申をし、又は台長に意見を具申する。
- 2 委員会は、別表に掲げるプロジェクト室、センター及び研究部の
 - 共同利用・共同研究の企画・運営・研究課題の選定に関する事項、
 - シンポジウム・研究会・広報普及活動に関する事項
 - その他共同利用・共同研究の実施に関する専門的事項について審議する。

科学研究部からの提案

理論懇運営委員会でメール審議

- 委員会は、科学研究部の
 - 科学成果創出を促進する環境構築に関する事項
 - シンポジウム・研究会・広報普及活動に関する事項
 - 大学やプロジェクトとの連携・交流・協力体制構築に関する事項
 - その他科学研究部に関する専門的事項について審議する。

委員長別選について（井上さん）

理論懇運営委員長の別選挙の提案

- 現在運営委員長は運営委員の中から互選で決定.
 - 運営委員の年齢層は4選以上禁止規定もあってか40台半ば以下であり, 必然的に委員長も准教授であることがほとんど.
 - 近年は政治的意味を持つ会合への出席依頼や意見表明を求められることが増えてきており, 準教授では重みが足りない.
 - 運営委員長は4選以上禁止規定を外して教授格の会員の中から選べないか?
 - 重要会合への出席以外の委員長の仕事は副委員長が行うことにすれば時間的拘束は少ない(重要会合はせいぜい年に1, 2回).
-
- やるとした場合のスケジュール案
春の学会で運営委員案を提示 → 秋の学会で議論, 修正
→ シンポ2023の総会で決議

夏の学校について（平島さん）

天文・天体物理若手夏の学校

2022年度開催報告と2023年度のご支援のお願い

2023年度 天文・天体物理若手夏の学校事務局

校長 平島敬也 (東京大学 D1)

天文・天体物理若手夏の学校

- 天文学・天体物理学を研究する若手研究者の定例研究会
- 毎年夏(7-8月)に開催 2023年度で第53回
- 日本各地から約300人の学生やポスドクが参加
- 企画・運営は若手研究者(主に学生)で構成される事務局が担う

夏の学校の開催目的

1. 若手研究者に発表の機会を与える
 - 約250講演・パラレルセッション方式
2. 若手研究者の見識を深める
 - 7つの分科会・招待講師講演
3. 若手研究者同士の幅広い交流の場を設ける

2022年度開催報告

日程: 2022年8月23日(月) - 26日(木)

場所: オンライン開催

事務局:07地区(京都大学)の学生

参加者数: 一般参加者 262名 + 招待講師 16名

一般セッション

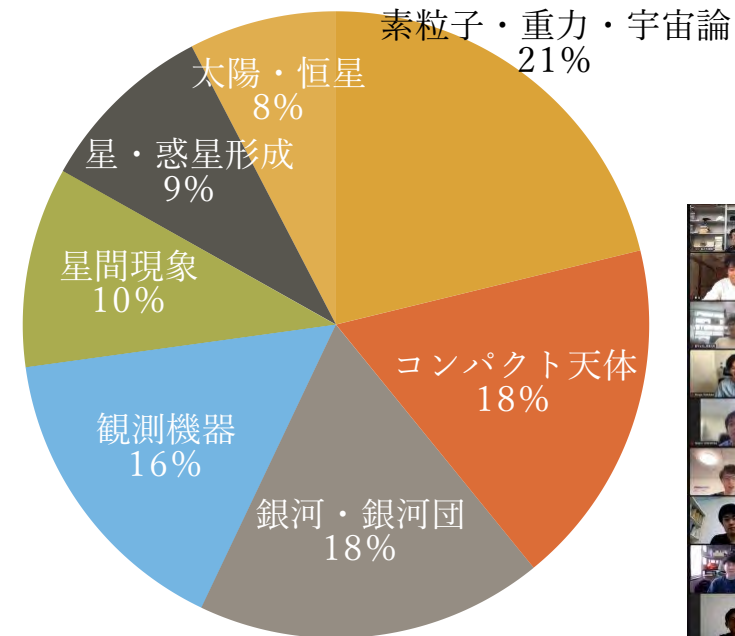
- ・ a講演 (12分間の口頭発表と3分間の質疑応答) 168件
- ・ b講演 (ポスターと2分間の口頭発表) 11件
- ・ c講演 (ポスターのみ) 10件

全体企画

- ・ コロナ禍の研究室コミュニケーション

用いたオンラインツール

- ・ Zoom: 口頭発表、ポスターセッション、分科会ごとのディスカッションや交流用
- ・ Slack: 発表後の議論等



2022年度決算報告

収入	金額 (円)	支出	金額 (円)
前年度繰越金	651,913	Zoom pro アカウント	13,970
		各種郵送費	18,460
		次年度繰越金	619,483
計	651,913	計	651,913

繰越金の増減 : 651,913円 → 619,483円 (-32,430円)

オンライン開催のため昨年度と同様に繰越金のみで運営

2023年度天文・天体物理若手夏の学校

事務局：A地区(旧01-03地区)の学生

開催地：東京大学ほか(検討中, 状況によってはオンライン開催)

会場選定の理由

- ・事務局員の所属大学に近いこと
- ・大人数が収容可能な部屋が複数借りられること
- ・アクセスが良く、宿泊施設が近辺に複数あること

開催日程：2023年 7月末

参加人数：300人(見込み)

対面開催の可否 → 天文学会・物理学会の秋季年会の開催形式の判断に倣う
自治体からの自粛要請があればそれに従う

おわりに

来年度の夏の学校は3年ぶりの対面開催を予定しています。

従来のような合宿形式では新型コロナの感染対策が困難なため、研究会形式へと変更しました。

現地開催の場合、例年通りの旅費負担額で夏の学校を開催するには貴研究会のご協力が必要不可欠です。

2023 年度も夏の学校にご支援いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

補足スライド

2023年度天文・天体物理若手夏の学校事務局

校長：平島敬也（東京大学 天文学専攻 D1）

副校長：吉岡岳洋（東京大学 天文学専攻 D1）

事務局長：岩田季也（東京大学 物理学専攻 M2）

副事務局長：大豆生田創（立教大学 M1）

会場：寺崎友規（東京大学 物理学専攻 D1）

会計：河合宏紀（東京大学 物理学専攻 D1）

寄付広告：嶋田理央（慶應大学 M1）

広報：松井思引（東京大学 天文学専攻 M1）

集録：黄天鋭（東京大学 天文学専攻 M2）

分科会：調整中

全体企画：調整中

レジスト：酒井優輔（立教大学 M1）

懇親会：調整中

予算案

表1 2023年度夏の学校予算（オフライン開催）

収入	金額（万円）	支出	金額（万円）
参加費	105.0	学生旅費補助	130.0
基礎物理学研究所 旅費援助	45.5	招待講師関連費	8.0
基礎物理学研究所 予稿集援助	4.5	公募企画講師関連経費	6.0
国立天文台 援助	50.0	予稿集制作費	4.5
理論天文学宇宙物理学懇談会 援助	10.0	アワード関連費	1.5
光赤外線天文連絡会 援助	10.0	雑費	5.0
高エネルギー宇宙物理連絡会 援助	3.0	会場費	80.0
宇宙線研究者会議 援助	10.0	事務局経費	30.0
企業・個人寄付	18.0	繰越金	51.0
繰越金	63		
計	319.0	計	319.0

表3 2023年度夏の学校予算（オンライン開催）

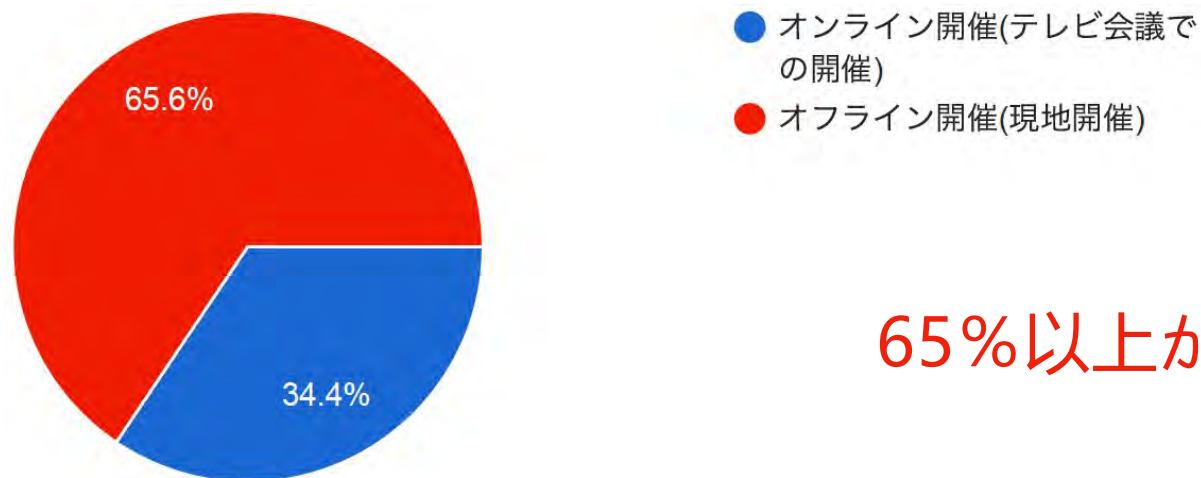
収入	金額（万円）	支出	金額（万円）
繰越金	63	アカウント利用料	5.0
		繰越金	58
計	63	計	63

対面開催について

2022年度夏の学校アンケート結果より

3. オンライン開催とオフライン開催、どちらの方が参加したいと思いますか。

61件の回答



65%以上が対面開催を希望

合宿形式は食事や入浴などでの感染対策が困難 → 天文学会のような研究会形式での対面開催を検討

感染対策案

1. マスク・消毒・換気の徹底

会場でのマスクの着用を義務化

マイクや座席なども適宜消毒し、換気も適宜行う

消毒液を設置し、参加者にも定期的な消毒を行ってもらおう

2. 各会場の人数制限

セッションやポスター発表の会場は収容人数の半分以下に人数制限を行い密を避ける